

味の素製薬(株)と(株)陽進堂による 合併会社設立に関する契約締結について

2012年12月25日

取締役 専務執行役員
長町 隆

医薬事業の経営課題と取り組み状況

(2012年11月7日 第2四半期決算説明資料)

経営課題と解決への取り組み

1) 輸液、透析事業の構造強化

外部資源の活用も組込んだ新たな事業スキームへの移行を
2013年度中の実行を目標に検討中



今回の報告

2) パイプラインの充実

① 積極的な外部連携、外部品導入の促進

導入に対するR&D費資源配分の増強(20%→40%)

② ラクオリア創薬(株)との共同研究開始:両社の強みを活かした創薬研究の推進

③ 胃炎・潰瘍治療薬「マーズレン」の販売開始:2012年7月より販売開始

④ 「モビプレップ」(AJG522:新規腸管洗浄剤)の製造販売承認取得予定

⑤ AJH801 (シルニジピン/バルサルタン配合剤)の製造販売承認申請の実施: 2012年10月申請済み

3) オペレーション効率(販売費・一般管理費)の改善

① 販売体制:効率的な販売体制の構築

② コーポレート部門:コーポレート要員のスリム化検討中

③ 間接材購買:購買機能の一元化によるコストダウンの推進

味の素グループの医薬事業及び味の素製薬(株)について

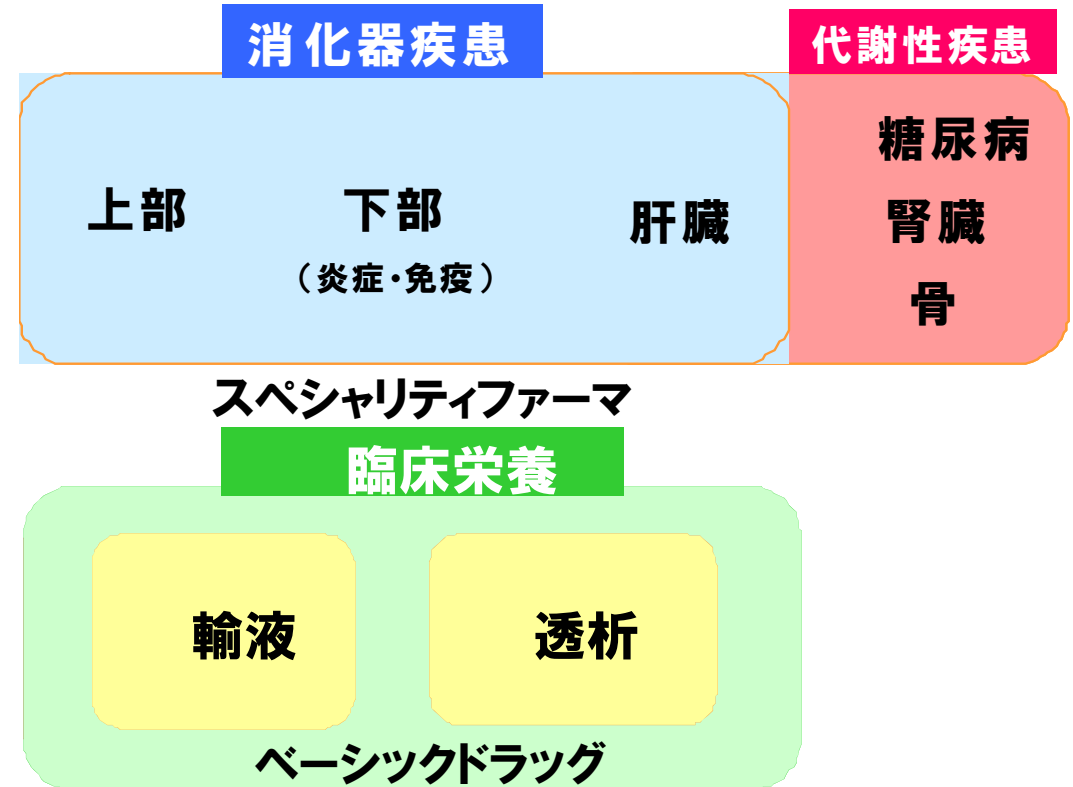
味の素グループの医薬事業の歴史

アミノ酸の応用から医薬事業が
スタートし発展してきた

- 1956年 医薬用アミノ酸の製造・供給開始
森下製薬(株)世界初の結晶アミノ酸
輸液「モリアミン」を発売
- 1957年 森下製薬(株)への資本参加
- 1981年 経腸成分栄養剤「エレンタール」発売
- 1995年 Ca拮抗降圧剤「アテック」発売
- 1996年 肝疾患用分岐鎖アミノ酸製剤
「リーバクト」発売
- 1999年 味の素ファルマ(株)設立
- 2002年 清水製薬(株)を取得
- 2010年 味の素製薬(株)設立

2012年度医薬セグメント業績予想
売上高 759 億円、営業利益 26 億円

現在の味の素製薬(株)の事業領域



輸液・透析製品 / 2012年度業績予想
売上高 約200億円(構成比 約25%)

消化器疾患領域を中心としたスペシャリティファーマを目指し、事業強化を推進

味の素グループ医薬事業の課題と解決の方向性

消化器疾患領域: スペシャルティファーマ

<課題>

収益性は比較的高いが、パイプラインの減少により新薬が不足

<解決の方向性>

事業領域を消化器疾患領域に絞り、自社創薬に加え、積極的な外部連携、外部品導入を行うことにより、パイプラインを充実

輸液・透析領域: ベーシックドラッグファーマ

<課題>

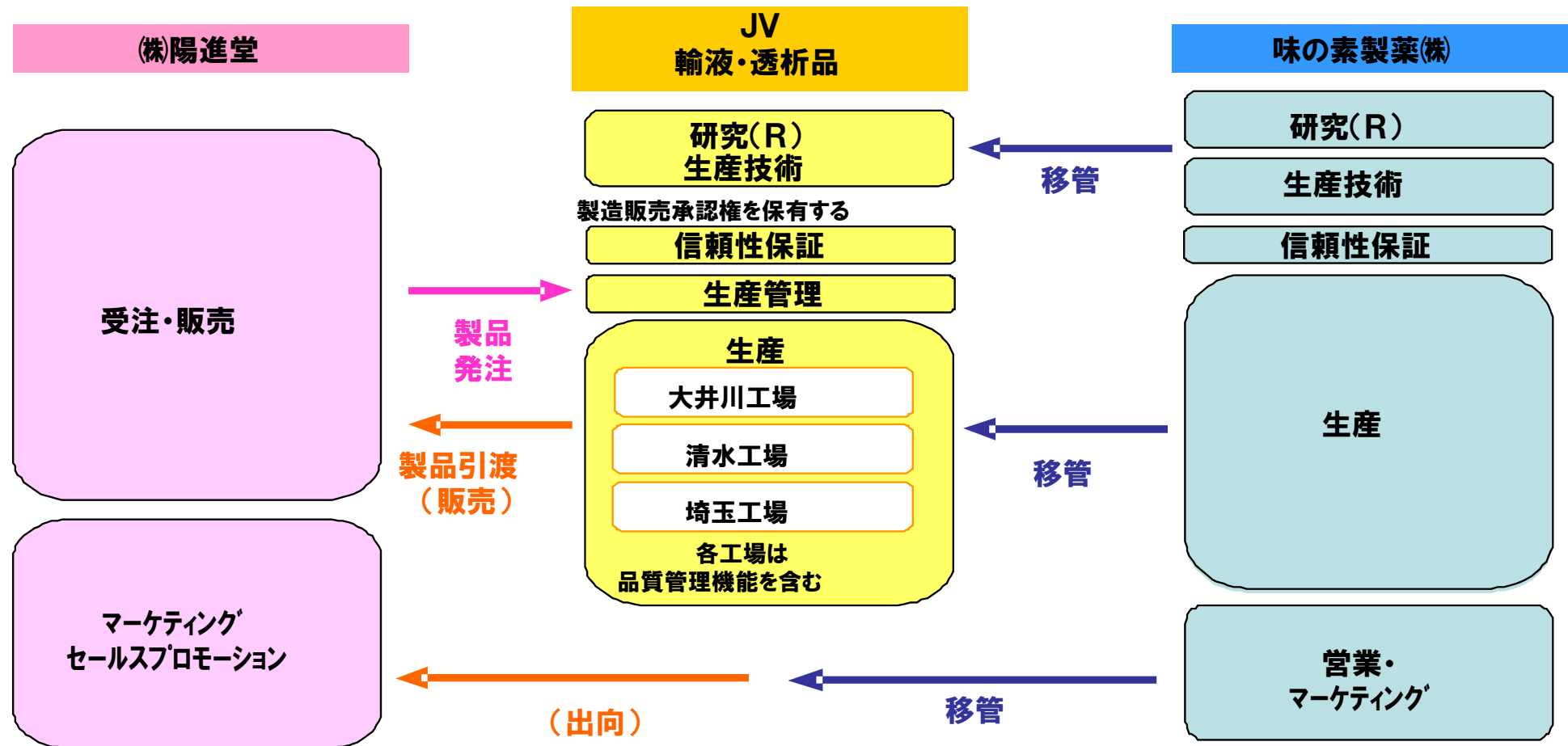
戦略上、市場環境変化への対応が不十分な中で、業績が悪化

<解決の方向性>

ジェネリック医薬メーカーである(株)陽進堂との協業による事業の抜本的再構築を行う

合併会社設立の目的

(株)陽進堂と味の素製薬(株)は輸液・透析合併会社を設立し、協同で味の素製薬(株)が有する当該事業資産を、(株)陽進堂主体の効率的な事業運営により最大活用していき、事業の発展と両社の企業価値の更なる向上を図る



合併会社の概要および基本戦略

- 1)社名 :エイワイファーマ株式会社(仮称)
- 2)設立 :2013年7月1日(予定)
- 3)資本金 :1億円
- 4)資本構成 :(株)陽進堂 51%、味の素製薬(株) 49%
- 5)本社所在地:東京都中央区
- 6)代表者 :代表取締役社長 佐藤 文正(現 味の素製薬(株) 専務取締役執行役員)
- 7)取締役 :4名((株)陽進堂より2名、味の素製薬(株)より2名)
- 8)要員 :約700名
- 9)事業内容 :輸液・透析関連製品の製造販売

合併事業の基本戦略

下記 基本戦略に基づき経営を行うことにより、輸液・透析領域の治療により一層貢献するとともに当該事業の収益の向上と安定的成長を図ります。

- 1) 味の素製薬(株)の事業資産を、(株)陽進堂主体の効率的な事業運営により最大限活用するマネジメントの実施
- 2) (株)陽進堂における協同した販売体制の構築による販売力強化
- 3) 積極的な設備投資、開発投資による新製品の上市とシェアの拡大

合併会社設立後の合併会社および両親会社の目指す方向

合併会社：継続的な設備投資、開発投資とローコストオペレーションを推進することにより、安定的な収益と成長を実現しうる輸液・透析事業を構築し、当該疾患領域の治療により一層貢献する

(株)陽進堂：ジェネリック医薬品事業に輸液・透析事業も備えた「無くてはならない製薬企業」への進化を図る

味の素製薬(株)：消化器疾患領域を中心とした「スペシャリティファーマ」として投入資源の集中化、成長の加速化を図る



味の素グループにおける医薬事業の今後の方向

味の素製薬(株)の更なる事業構造強化を図ると共に、当社グループが保有する先端バイオ・ファイン技術を基盤に、医薬周辺事業(培地事業、製薬会社へのカスタムサービス事業等)を強化し、医薬事業＋医薬周辺事業のシナジーを創出、当社グループならではの医薬事業のビジネスモデル構築を推進する

上記ビジネスモデル構築の基盤として、医薬事業については、次期中期計画(14-16)中に、安定的に営業利益率 10%以上を創出する頑健な事業構造を構築する。

参考資料

参考資料1

輸液剤

輸液剤とは

生命維持に不可欠な「からだの恒常性の維持」のため、体液の代謝異常(水分・電解質・酸塩基平衡の異常、栄養障害等)の正常化、あるいは体液の代謝異常を未然に防ぐための最も基礎的且つ重要な薬剤

輸液の目的

- 水分・電解質・酸塩基平衡の正常化・維持
- 栄養状態の改善・維持
- 溶解剤、混注による他剤の点滴投与、血管確保、病態の治療

引用: 輸液製剤協議会HPより

アミノ酸・ビタミンB1加総合電解質液
「パレセーフ輸液」



輸液用電解質液(維持液)
「ソリタ-T3号輸液」



透析剤

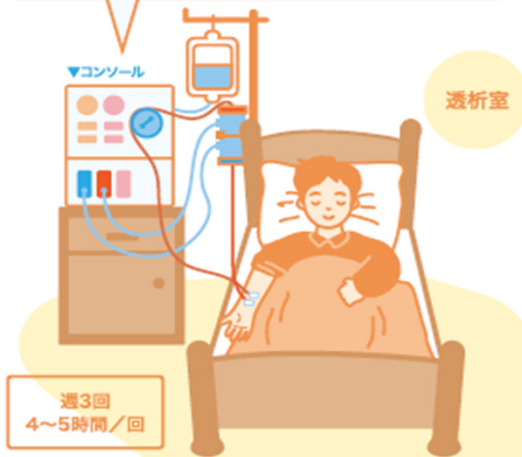
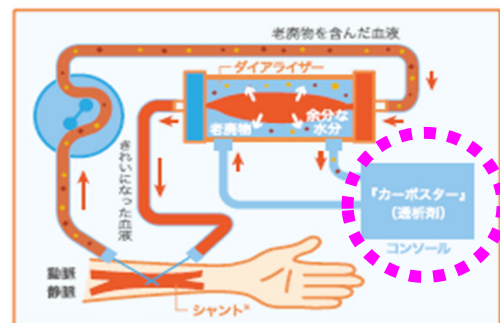
透析剤とは

人工透析の際に使用する薬剤です。使用する際には、希釈して、人工透析用の透析液供給装置に投入します。

透析の目的

腎不全などになり腎臓の働きが低下してしまった場合に、身体の浄化を行う腎臓に代わって血液の浄化を行う治療方法。

参考: 人工透析ネットワークHPより



※シヤント: 透析を効率よく行うために、静脈と動脈をつなぎ合わせて太くした血管。



人工腎臓透析用粉末製剤
「カーボスター透析剤・P」



人工腎臓用透析液
「カーボスター透析剤・L」

参考資料2:厚生労働省による医薬品産業の分類

